



豊後大野市

1 豊後大野市の概要

豊後大野市は、大分県の南西部、大野川の中・上流域に位置し、人口約3万5千人のまちです。四季を通じておおむね温暖で、一部の山岳地帯を除いては、平坦地の平均気温は15～16℃と極めて農耕に適しており、古くから農業を基幹産業として発展してきました。起伏に富み、複雑な地形をいかし、かつ、大小の河川を集めて別府湾に注ぐ大野川の豊かな水利があるため、大分の野菜畑と言われるほど農業が盛んに行われています。中でもピーマンは西日本有数の出荷量を誇ります。

畜産業では「第11回全国和牛能力共進会」で種牛の部日本一になるなど力を入れています。

2 豊後大野市の自然

豊後大野市は、九州で唯一「日本ジオパーク」と「ユネスコエコパーク」の両方に登録されるなど豊かな自然を有しています。

豊後大野市の大地は、約9万年前の阿蘇山巨大噴火による火砕流が冷えて固まった溶結凝灰岩で形成されており、溶結凝灰岩は加工しやすいため、磨崖仏やアーチ式石橋などが市内各所にあります。

祖母山は日本百名山に選ばれていて、年間を通じて多くの登山者が訪れます。ブナ林など豊かな原生林が残され、川上溪谷など美しく豊かな水流を育み、春にはアケボノツツジやミツバツツジ、夏には深い緑、秋にはパッチワークのような紅葉、冬は霧氷と四季を通じて登山者に人気があります。



◀ 原尻の滝

幅120m高さ20mの大瀑布。足元からストンと落ちるように見える珍しい滝で「日本の滝100選」「大分県百景」のひとつにもあげられています。

▶ 川上溪谷

夏に深い緑に包まれる川上溪谷は、森林浴の森百景にも選ばれています。



◀ 祖母山

鋭く尖った稜線や岩壁など荒々しい姿を持つ祖母山は、地域の人々の畏敬の念を集めてきました。



国指定重要無形民俗文化財の御嶽神楽。
力強く華麗で勇壮な舞が特徴。

3 豊後大野市の伝統

伝統芸能も盛んで、各地で神楽、白熊、獅子舞などが受け継がれています。中でも宝徳元（1449）年に発祥したと言われる御嶽神楽は平成19年に国の重要無形民俗文化財に指定されています。そのほか、奇祭とも言われる大わらじを履いたひょうたん様がお神酒を振る舞う「ひょうたん祭り」やふんどし姿の男衆が神輿を担ぎ冬の川を渡る「緒方三社川越しまつり」など、約800年続く祭りもあります。